

三田高校

TOMOKAKI



第30号

発行所／東京都立三田高等学校

(青葉会・同窓会)

港区三田1-4-46 3453-1991 (代)



校長 須藤 勝

こころ
のぞみ 明るく
清く

青葉会の皆様に、本誌においてご挨拶するのは初めてのことと思います。本年四月に着任致しました、本校第十九代校長の須藤勝でございます。

今年五十六歳、教科は国語、校長歴は六年目、本校が二校目の若輩者ですがよろしくお願い申し上げます。

青葉会には、常に本校の教育に温かいご理解、心のこもったご支援・ご協力を賜り、深く感謝申し上げます。

ご存じのように、本校定時制は、来年度に最後の卒業生（現二年生）を送り出して閉課程となります。しかし、最後の一人まで大切に育て、生涯にわたって、強く、生き甲斐を持つて生きていける力を涵養したいと考えています。

私の教育信条、生徒をどのように育てたいか、ということで申しますと、好きな言葉がございます。

「いころ

明るく、

のぞみ 清く」これは安岡正篤の言葉ですが、私の願いはこれに尽きます。

昨今、いじめや学校不適応など心の問題が社会的にも大きな課題となっております。大人社会に毒され、多くの若者達の心は曇っております。ですから、心に一点の曇りもない日々を送るための真の学びが求められています。

そして、将来の望みは、清いものであって欲しい。出世とか、金が儲かるとかではなく、純粋にこの道に進みたい！、という、若者にとつて何にも代え難いこの気持ちを大切にしたい。

現代は、常識では信じられないような凶悪で、動機の薄弱な犯罪が多く発生しております。目的と手段が見えなくなり、毎日をおどろきな形で過ごす若者が増えています。学んだことが生きる力にならない現状を憂えます。

定時制の生徒は、様々な事情から、常に心に不安を抱えています。その不安を少しでも取り除き、この子達を真っ直ぐ育てたい、

それが私の思いです。どうか、皆様のお力添えをよろしくお願い致します。



副校長 矢島 賢二

学校要覧より

平成二十年三月に本校は閉課程となります。閉課程の準備のため、私は学校要覧を一部読み始めました。

以下に紹介するのは、主に昭和四十年代の学校要覧です。この年代に卒業された方は、団塊の世代、及びその数年後の方々でしょう。

さて、昭和四十五年『学校要覧』の「生徒実態調査」を見てみましょう。生徒数、四百十五名、男女半々です。年齢は、ほとんど学年令ですが、一十歳、三十名、二十一歳以上、四十名とやや遅く勉学している生徒もおります。

四百十九名中、港区在住二百三十二名。勤務有りが四百十三名。勤務先が港区三百二十三名。勤務先の規模十人～四十九人が、百三

名。勤務先の種類では、製造業・サービス業とも百四十一名。月給制、三百名。給与二万五千円台四十九名。

といった数字は、それぞれの項目の最大人数を紹介したものです。続いて、職場の寮が、二百四十名。資料から読み取ると始業八時前、終業五時前、帰寮十時頃、一部屋複数が平均の寮生活だったようです。

少しですが、調べた結果を掲載させていたできました。来年度は、本校は閉課程ですが、定通が出来てからは、六十周年です。人間でいえば還暦です。色々な思いが混在する年になりそうです。閉課程式典では、皆さんと共に元気な姿でお別れしたいと存じます。



会長 若月 義男

二十年三月に向けて

今年は総会、懇親会は開催しませんが、会員の皆様におかれましては、ご健勝にて活躍のこととお慶び申し上げます。

四月の人事異動で、二年間お世話になりました揚村校長先生が都立戸山高校へご栄転されました。在任中は同窓会活動に深いご理解とご支援をいただき本当にありがとうございました。

後任には深沢高校から須藤 勝先生が着任いたしました。引き続きご指導いただきたいと思います。

今、学校は、三月に十一名の卒業生（同窓会入会者は九名）を送り出し四年生と三年生だけになりました。教員も年々減少する中、少数精鋭で全員が卒業できるようにきめ細かい指導に全力をそそいでいます。そんな中、特徴的なこととして、三田高は十七年度よりモデル校として、奉仕体験活動に取り組んできましたが、平成十九年度

従って、来年の「ともかき」は総会の案内も兼ねようと思っております。発行が少し遅くなるのが想定されますので、ご承知おきください。

毎年のことですが、ともかきの原稿をお願いした皆様、維持費にご賛同いただきました皆様に厚く御礼申し上げます。